

Wesley Hall News

ウェスレー・ホール・ニュース

April, 2024 No.145

私は、平和をあなたがたに残し、
私の平和を与える。

ヨハネによる福音書 第14章 27節



必要なただ一つのこと

中等部宗教主任

浅原 一泰



「ありときりぎりす」の童話を思い出して下さい。楽をして怠けるきりぎりすに対して、ありは冬に備えてせっせと食糧を巢に集めます。そんなありの姿をきりぎりすは馬鹿にして見ている。ところが厳しい冬がやって来ると、何も備えていないきりぎりすは困り果てありに救いを求める。この話にはきりぎりすのような怠け者になるな、働き者のありになれというメッセージがあります。

しかし聖書には正反対に見える教えがあります。イエスをもてなすためにせわしく立ち働く姉のマルタに対して、妹のマリアの方は何もせずに座ったままじっとイエスの話を聞いている。マルタがイエスに、妹にも働くように言ってくださいと頼み込むとイエスはマルタをいさめ、マリアは良いものを選んだのだと論じます（ルカ10：38-42）。マルタがありでマリアはきりぎりすのようにも思えます。なのにイエスはマリアを良しとしました。

ただ、イエスはマリアをこう論じていました。「マルタ、マルタ、あなたはいろいろなことに気を遣い、思い煩っている。しかし、必要なことは一つだけである」。そして「マリアは良いほうを選んだ。それを取り上げてはならない」と。先ほどの童話では、必要なただ一つのことを選んでいたのはありで、無意味に多くのことに心を乱していたのはきり

ぎりすかもしれません。ありは生きる為に必要なただ一つのことと専念していましたが、きりぎりすは今日は何をして時間をつぶそうかと、無駄なことに思い煩っていたと思うのです。

イエスの弟子の中にも落ちこぼれた者がいました。ヨハネ福音書20章に出て来るトマスです。他の弟子たちは皆、十字架の死からよみがえったイエスと出会っていたのに、トマスだけはその場にいませんでした。主は生きておられると仲間から聞かされてもトマスは納得できず、言い返します。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をその脇腹に入れなければ、私は決して信じない」(ヨハネ20:25)。他の弟子たちはありで、トマスはきりぎりすに近いかもしれません。

「自分は出来ない、無理だ」という思いを誰もが持っています。そして無難な道を選ぶようになります。トマスもそうだったでしょう。しかし「必要なただ一つのこと」に気づかせるためにイエスはトマスの前に現れ、こう言います。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばして、私の脇腹に入れなさい」(ヨハネ20:27)。

聖書は「トマスのようになるな」とは言いません。むしろ、疑うトマスにこそ歩み寄り、あなたの指を釘跡に当ててみろと語りかけて「必要なただ一つのこと」に気づかせるイエスを伝えるのです。きりぎりすをありへと生まれ変わらせる復活のイエスが、無理だと諦めているあなたにも歩み寄り気づかせてくれる。そんな一年でありますように。

それから、トマスに言われた。
「あなたの指をここに当てて、私の手を見なさい。
あなたの手を伸ばして、私の脇腹に入れなさい。
信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

ヨハネによる福音書20章24～29節(一部抜粋)

よろこそ青山学院へ

新たな出会いと発見に満ちた学院生活。
新しい仲間へ歓迎のメッセージを送ります。

幼稚園教諭 橋本 治奈

神さまにまもられて

ご入園おめでとうございます。いよいよ幼稚園生活が始まりますね。年中組と年長組のお兄さんお姉さんたちも、そして先生たちも皆さんと一緒に遊ぶことを楽しみに待っていましたよ。初めての幼稚園生活は、嬉しいことや楽しいことだけではなく、どきどきすることやお家の方に会いたくなって涙が出ることもあるでしょう。そんな時には、先生たちだけではなく、お兄さんやお姉さんたちも、皆さんのことを心配して声を掛けてくれます。どんなときでも先生たちは一人ひとりの思いを受け止めて、安心して過ごしていけるように近くにいます。どんなことをして遊ぼうかなと毎日楽しみに幼稚園に来てくださいね。

幼稚園で一番大切にしていることは神さまへの礼拝です。毎日お祈りをして讃美歌を歌います。聖書のお話も聴きます。嬉しいときも悲しいときも、神さまはいつも一緒に歩いて守ってくださいます。一人ひとりがお神さまの子どもとして、神さまのお守りの中で過ごしていけることに感謝して、これからの歩みの上に神さまの豊かな祝福がありますように。





おすすめの絵本

幼稚園教諭 赤坂 洋子

『きょうというひ』 作:荒井良二、BL出版、2005年発行

「ちいさないのりがせかいをかえる……………」

帯のキャッチコピーが目にとまり、私はこの絵本と出会いました。

今日という日、ロウソクに灯をともします。消えないように、消えないように、空を見上げて祈ります……消えないように、消えないように、小さなあかり……今日という日の小さな祈りが、消えないように、消えないように……

シンプルに紡ぎ出される言葉。少しずつ、やがて沢山ともされていくロウソクの灯。私にはそれが、幼稚園の子どもたちの日々の祈りと重なります。

青山学院幼稚園の生活は祈りのある生活です。友だちのこと、家族のこと、大きな地震があった地域の方々のこと、戦争で傷ついている方たちのことなど、保育者と一緒に祈ります。今日という日の一人ひとりの声は小さくても、その一つひとつの祈りから創り出されていく平和な世界への希望は、この絵本のロウソクの灯のように輝いていくことでしょう。

「ちいさないのりがせかいをかえる……………」のです。



初等部教諭 吉野かおり

不安は祈りに

御入学を心よりお祝い申し上げます。

保護者の皆さまにとっても、初めての学校生活となります。不安なことがあるかもしれません。そんな時は、お祈りに加え、時折「あおいくま」とつぶやいてみてください（保護者会でも何度かご紹介した言葉です）。

- ① せらない…焦って何かが早く進むなら良いのですが、何事にも、殊に人が成長するには時間が必要です。
- ② こらない…気持ちはよく分かりますが、怒りは自分も相手も傷つけます。何が良くないのかを諭す方が、伝わります。
- ③ ばらない…大人だから、教員だから正しいわけではありません。神様の前に、わたしたちは等しい存在なのです。
- ④ らべない…比べるなら、その対象は以前の我が子です。後退しているように見えて進んでいる時もあるので、注意深く（特に反抗期）。
- ⑤ まつ…時は必ず満ちます。わたし達にはそれがいつなのか知らされていないだけです。一人ひとりにふさわしい時が、神様によって必ず用意されています。

これから始まる初等部での6年間の歩みが、主に導かれ、喜ばれるものとなりますように。

初等部2年 黒子 結風

あうのがたのしみ1年生

学校に入ると、いろいろなことがあるんだよ。学校に入るまえ、じゅぎょうでわからないことがあったらどうしよう、おともだちとなかよくできるかな、と、わたしはすっごくどきどきしてたんだ。でも、おもっていたより早くともだちができたし、じゅぎょうでわからないことは、先生にしつもんしてわかるようになったよ。

わたしは、きゅうしょくのサラダがにが手です。さいしょはドレッシングがいやだったけど、すこしずつチャレンジしたら、たべられるようになってきたよ。いまはトマトにちょうせん中で、ちょっとずつたべられるようになってきました。

お正月になると、2年生にこまをおしえてもらうよ。わたしは、はじめはまわせなかったけど、おともだちにおしえてもらったら、うまくできたよ。1人でできないことも、だれかと一しょにすると、できるようになるよ。

学校はたのしいよ。いまはしんぱいでも、きっとできるようになるから、大じょうぶ。わたしたち2年生も、みんなにあえるのをたのしみにまっているからね。





中等部教諭 関隆一

ご入学おめでとうございます

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。中等部へのご入学を、心よりお祝いたします。

中学時代の3年間は、心身ともに大いに成長する時期であると思います。

大きく成長するためにも、常に目標を持ち、失敗を恐れず様々なことに挑戦して行ってほしいと思います。

勉強では、テストだけでなく様々な資格を取得することもできますし、クラブ活動では、大会やコンクールなどで活躍する機会がたくさんあります。

初めはうまくいかないかもしれませんが、これから始まる中等部生活で、たくさんの友人や先生に出会い、きっとその出会いから、ともに悩み、ともに壁を乗り越え、大きく成長することができるのではないのでしょうか。

また、毎日の礼拝を通して神にふれ、心の成長に大きな力を与えてくださることでしょう。

青山学院中等部での3年間の生活で、大きく成長することを期待します。



中等部3年 田嶋 凜

笑う門には福が来る

新入生の皆さん、この度はご入学おめでとうございます。皆さんと一緒に学校生活を送れることをとても楽しみにしていました。

新しい生活のスタートに、期待と不安が入り混じっていることと思います。私も2年前は、勉強についていけるのか。友人はできるのか。部活は何に入れば楽しく過ごせるのか。電車通学に慣れる日は来るのかなど、不安しかありませんでした。ですが、2年経って皆さんに言えることがあるとすれば、大なり小なり悩みや迷いなくなることはありませんが、何とかなる！ ということです。もちろん、

友人たちの助け、先生方のご指導、家族の優しさ、自分自身の努力などの上に成り立っていることですが、この学校に入ってよかったと思っています。

まだまだ人生の成長の一段階に入ったくらいなので、失敗や後悔があって当然の私たちです。不安や緊張をむしろ楽しんで、笑いあっていきましょう。3年間、皆さんが充実した日々を過ごせることを祈っています。



高等部教諭 宇田川 雅子

友の人格で研がれる?!

新入生のみなさん、高等部へのご入学おめでとうございます。
みなさんのご入学を心から歓迎いたします。

新生活を前に、みなさんの心は期待と不安で一杯のこととお察しいたします。そのような中であって、みなさんにとって一番楽しみなこと、または一番不安なことはなんでしょうか？

実は一番の楽しみ、不安、どちらも「友達ができること」だったりしませんか？

旧約聖書には友達について、こんな言葉があります。「鉄は鉄で研がれ、人はその友人の人格で研がれる。」(箴言27章17節聖書協会共同訳)

私達は一人では成長することができません。他者との関わりの中で、様々なことを考え、時に喜び、時に泣き、色々なことを学びながら成長していくのだと思います。私たちは周りの人たちの人格で研がれるのです。

高等部には様々なバックグラウンドの人たちがいます。お互いにその違いを認め合い、関わることで全員が成長していけたら、と願います。

みなさんの新生活の上に、神様の豊かな祝福がありますようお祈りしています。





高等部3年 宇治田 理紗

ようこそ青山学院へ

新入生の皆さん、おめでとうございます！ 希望に胸を膨らませていることでしょうか。青山学院には、自由闊達な雰囲気、熱心に向き合って下さる先生方、お互いを尊重し合える個性豊かな仲間との出会いと、魅力を挙げたらきりがありません。生徒主体で創り上げる行事では、時に困難もあるからこそ、達成した時の喜びは格別です。時間のやりくりで頭を悩ませるほど目まぐるしい日々ですが、聖書のことばに耳を傾ける礼拝の時間は、静かに自分を見つめられるよいひと時です。私は「イエスは真の葡萄の木（ヨハネ15：5）」その枝である私達を豊かな実りへと導いて下さるといってお話大好きです。繋がりや温かみ、自信と一歩を踏み出す勇気を与えられる気がするからです。そして今、享受しているこの幸せも多くの方々の支えあつての奇跡に思え、感謝の念と共に、私も誰かの役に立ちたいと思えるからです。

夢を持っている人も、これから探す人も、この緑溢れる美しいキャンパスで思いっきりチャレンジして、かけがえのないこの一瞬一瞬を楽しんで下さい！

理工学部准教授 井口 幹夫

真のリセット



入学という風を受け、皆さんの帆は期待を膨らませ、新しい航海を始めました。入学はゼロからのスタートが切れる貴重な人生の節目です。私たちはもっと成長したい、変わりたい、新しい人生の章を始めたい時に入学、入社、新年、誕生日など暦を借りる時があります。

これまで選抜・受験という容赦のない勝ち抜きトーナメント戦を繰り返し、その中で成功も失敗もあったことと思います。しかし、人生は敗者復活のないトーナメント戦でしょうか？ 決してそうではありません。マルティン・ルターは人生が悔い改めの連続であることを説きました。

聖書が示す世界観はやり直しが利くリーグ戦です。自分は大学生活の中で与えられた自由をまず自分だけを満たすことを選んだために、多くの失敗や挫折を味わいました。その中で最大の収穫は人生を変える力を持ったイエス・キリストと聖書を知ったことでした。リセットができるのは入学のこの時期だけではありません。イエス・キリストによって「今、ここで」リセットするチャンスがあるのです。

是非とも大学生活の中で聖書、礼拝、クリスチャン学生や教職員との交流を通し、誰でも真のリセットができるキリスト教の世界観を味わって下さい。

「主を待ち望む者は新たな力を得 鷲のように翼を広げて舞い上がる」(イザヤ書40:31)

経営学部4年 牛島 大稀



ご入学おめでとうございます!

履修科目もおおかた決まり、大学に通う準備ができてきたところでしょうか？ 3年前、皆さんと同じ立場にあった私は、講義、部活・サークル、バイトすべてが新鮮で、今まで経験したことがないような機会に沢山恵まれました。コロナの影響を受けていた私の時期でさえ多くの経験がありました。皆さんにはより多くの新しい良い機会が与えられると思います。そんな青山学院には、他の大学では経験できないものに触れる機会があります。キリスト教です。青山学院が、キリスト教の教えを教育理念とする学校であることを多くの人が入学してから知ったと思います。礼拝、キリスト教概論、大学公認のキリスト教学生団体等、大学で安全にキリスト教を学ぶ機会が整っています。キリスト教の価値観に触れつつ、他の大学では経験できない新しい体験をしてみたいはいかがでしょうか。

これからの新しい出会いに期待と不安を寄せていることだと思いますが、皆さんの学生生活が守られますようにお祈りしています。





イースターによせて

一人ひとりが神様に愛されている大切な命。
イースターの喜びを語っていただきました。



幼稚園教諭 岡林 亜季

イースターって嬉しい日!

幼稚園に入園したばかりの年少組には、まだ神さまやイエスさまのことをあまり知らなくて「イースターってなあに?」といった様子の子どももいます。そんな子どもたちと過ごすイースターで保育者が願うことは「イースターって嬉しい日!」と感じてもらうことです。

2023年度のイースター礼拝では、年少組の親子で礼拝をまもり、(パネルシアターを用いた)動物たちがイースターを喜んで卵探しをする話を聴いてから、裏庭に出かけて親子で卵探しをしました。子どもたちは一生懸命に卵を探し、見つかると「あった!」と言って嬉しそうにお家の方に卵を見せていました。

一貫校で歩む子どもたちはこの先、イエス・キリストの降誕や奇跡、受難、そして復活の物語を毎年聴いて、その年齢に応じた受け止め方をしていくことでしょう。その一番最初のイースターが、イエスさまが復活されていつも私たちと共にいてくださるといふ喜びを親子で分かち合う時となることを願っています。

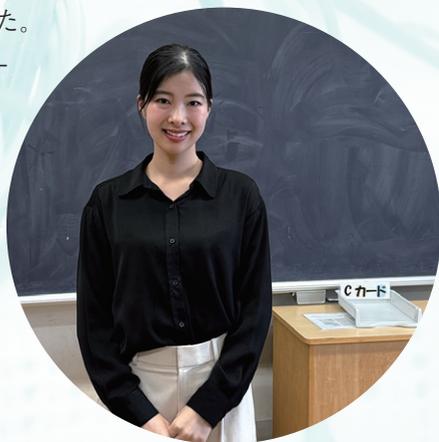
初等部教諭 名取 天音

神様と共に踏み出した一歩

2018年4月1日、高校三年生になる年のイースターに私は洗礼を受けました。クリスチャンホームに生まれ、幼少期から教会生活を送る中で、いつか自分も受洗するのだろうかという漠然とした想いで過ごしてきましたが、ミッションスクールの高校で学び、神様の存在を改めて知ったことで、受洗を考えるようになりました。

しかし、高校生の私にとってクリスチャンとして歩む決心をすることは簡単ではありませんでした。教会に通っている同年代の友人は少なく、自分の中で悶々と悩む日々が続きました。そんな私がクリスチャンとして神様と共に一生を歩む決心がついたのは、周りの人が心から喜んでくれたからです。家族、教会の方々、先生方、誰もが受洗したいけど一歩踏み出すことのできない私の背中を押し、受洗することを心から喜んでくれました。そして2018年のイースターに、私は新しい一歩を踏み出すことができました。

そんな2018年のイースターは、私にとってかけがえのない大切な日です。



中等部3年 大塚 千鶴

私のイースターエッグ



皆さんはイースターといえば何を思いつきますか？ 大体の人がウサギかたまご（もしくはひよこ）と答えると思います。ウサギは多産な動物なので、縁起がいいそうです。また、たまごのほうは動かないたまごから雛という生き物になる光景がイエス・キリストの復活の様に見えることからイースターで用いられるそうです。

私は今までエッグハントしたことは数回しかありません。100円ショップで売っているようなプラスチック製のイースターエッグを探しました。見つけ出したイースターエッグにはある時は個包装の飴、ある時はチョコレート、ある時は何も入っていませんでした。でも、イースターエッグに入っているのはそれだけでしょうか。私はたまごがイースターで用いられる理由を知ったときにイースターエッグの本当の中身は神様なのではないかと考えました。



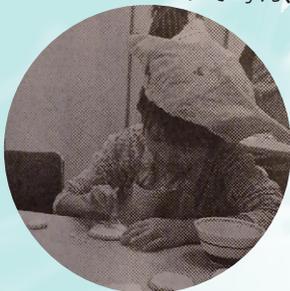
私たちの目には神様は映りません。一人ひとりの心に神様はいらっしゃる。と礼拝の説教で聞きました。いつかイースターエッグを見つげ出すように自分の心の中で神様を見つげ出せたらいいなと思います。

高等部3年 野呂百合子

私とイースター



私がイースターの思い出で一番印象に残っているのは、自分の通っている教会で小学生の時に参加したアイシングクッキー作りです。お菓子作りが得意でいらっしゃる教会員の方に教えていただきながら、うさぎや卵などの形をしたクッキーに水色や黄色、緑色などのクリームで自分の思いのままにデコレーションしていきました。普段なかなかお話しする機会がない教会のおじいちゃまやおばあちゃまとお互いのクッキーの出来を見せ合ったり、お話ししたりしながら打ち解け、あっという間に時間が過ぎていきました。当時はまだイースターの意味をよく理解できていなかったのですが、教会員の方と一緒に楽しみながらお祝いすることができ、とても嬉しかったことを覚えています。そしてそれをきっかけに少しずつ十字架や復活の意味について考えるようになりました。今年は高等部でキリスト教に初めて触れる方と共にもう一度その意味について考え、豊かな学びの時としていきたいです。



経営学部3年 大谷 未来

新しい生活と復活の希望

イースターおめでとうございます。

そして、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

経営学部マーケティング学科3年の大谷未来です。

別れと出会いの季節、新入生の皆さんの中には、高校の別れを惜しみつつ、新たな生活に期待を覚える方も居るかもしれません。

イエスが復活されたのもこの時期。

イエスが去って、悲しみのどん底にいたのも束の間、墓の闇をも開かれて、いつまでも私達に希望を与えてくださる救い主としてイエスは復活されることを、イースターを通してもう一度語られます。

私は入学時に友達に誘われて、青山キリスト教学生会（ACF）に入会し、同世代の友達の祈りを聞き、昨年のイースターに受洗し、新しい命として生まれ変わりました。

受洗式では、足を運んでくれたACFの友達に、改めて神様に繋がれている愛、共に歩める喜びを覚えました。

入学時はクリスチャンではなかった私も、大学生活の大半をACFの友達と共に過ごしていることに感謝を覚えます。

イースターのこの時期、大学での新しい生活に花が咲き、心踊る希望を持てることをお祈りしています。



編集後記

2024年度が始まりました。今年度も多くの新入生をお迎えすることができました。新年度は、新入生だけでなく、在園、在校生にとっても新たな出会いがあり、その出会いを楽しみにしている人もいれば、不安に思っている人もいるでしょう。そんな新しい生活を始めるときに、私たちに寄り添ってくれるような聖句や言葉がたくさん掲載されています。神様がいつもそばにいて見守り、導いてくださいます。どんなときでも神様がともにいてくださることを覚え、青山学院での日々を過ごしてください。

初等部教諭 紀 晃太

Wesley Hall News 第145号

2024年4月10日発行

発行 青山学院宗教センター
学院宗教部長 伊藤 悟

編集 青山学院 Wesley Hall News 編集委員会
〒150-8366
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL 03-3409-6537 FAX 03-3409-8865

デザイン 株式会社マツダオフィス
印刷 株式会社イニユニック

URL <http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html>
MAIL agcac@aoyamagakuin.jp みなさんの感想をお聞かせください

青山学院スクール・モットー

地の塩、世の光

The Salt of the Earth, The Light of the World

(マタイによる福音書 第5章 13-16節より)